

飛騨びと言の葉綴り

HIDA CITY 20TH
ANNIVERSARY



河合町『フィジーのケレケレ文化に、トコトン魅了された、飛騨のClown Toka～岡崎賢一郎』

かわいいスキー場に飛騨弁を操る、フィジアン(FIJIAN=フィジー人)がいたら耳にした。
「まあどうぞ!」。ワイルドで大柄な髭面男が迎えた。「こちらに飛騨弁の上手いフィジアンがいますか?」「それって、ぼく?」。その後も澁みない飛騨弁が炸裂!「ワッハッハッハ! ぼくは生まれも育ちも、この河合町! 生粋の飛騨びとです」。岡崎賢一郎さん43歳。Toka CLOWN CLASS代表。`kawaii` 飛騨かわいいスキー場のNOASOBIキャンプ場を運営する、株式会社 Inter-being の代表取締役だ。昭和56年河合町稲越で誕生。高校卒業後、地元企業に就職。2005年、古川町出身の妻を迎えた。2007年に退職。夫婦でフィジーへ。「色んな経験をしたかったのと、生活費が安かったから」。岡崎さんはまだ、フィジアン達のライフスタイルが、後に多大な影響を及ぼすなどとは、思ってもみなかった。
「毎日驚きの連続。Tシャツを洗濯して取り込もうとすると、見当たらず。風に飛ばされたかと思ひ街を歩いていると、ぼくのTシャツを着た男とすれ違って!『それ、ぼくのだけど!』って言うと、その男は悪びれもせず『ケレケレ』って笑い掛けるんです!『ケレケレ』って一体何だ? 教えられてビックリ! 逆にぼくも見ず知らずの人に、お金の持ち合わせが無い時に『ケレケレ』って言うと、酒でも食事でも面倒見てもらえるとか!

『ケレケレ』って、『お願い、頂戴、貸して』が融合した、人の物は自分の物、自分の物は人の物。互いに補う事で暮らしが成り立つ国、それがフィジアン達の『ケレケレ』文化です!」。

フィジーでの1年が過ぎ、今度はニュージーランドへ。ワイナリーでアルバイトに勤しんだ。「そこで一緒だったのが、トンガ人やサモア人。彼らもポリネシアン特有の寛容性や思いやりの持ち主で、彼らの影響力が心に染み入って」。降りしきる雪に目をやった。「色濃い2年! それが現在の基盤かな?」。30歳で帰国。再び地元企業へ復職。38歳を迎えた頃、日本のホスピタルクラウン第一人者、大棟耕介さんと運命的な出会いが!「俺もやってみたい!」。人と人を結び付ける力、癒す力に魅了されクラウンの魔法に憑りつかれた。大棟さん主宰の「クラウン入門講座」に、毎週名古屋まで約5ヵ月通った。その後、ボランティアで保育園や子ども会で、クラウンデビュー!すると師から「ノーステキサス大学で、学んで来たらどうか」と。単身2週間の武者修行を終えた。「ボランティアではお金がかからない。アマチュアだと甘えも生じる。プロとして甘えの許されない状況に身を置き、活動したい!」。2020年、地元企業を退職し会社を設立。師からクラウンネーム「Clown Toka」を拝命。Tokaとは、フィジー語で「胡坐(あぐら)」と言う意味だ。クラウンの活動も、Inter-beingの事業の一つ。夏場のスキー場を、キャンプ場としてプロデュースする「NOASOBIキャンプ場」の運営も始まった。「自然と触れ合い自然と戯れ、自分と向き合い自分自身と対話してほしい。自分の心の中に、緩やかで居られる余白を作って欲しいから。今最も力を入れているのは『アースオープン』」。ニュージーランドマオリ族の『ハンギ料理』は、地面に穴を掘り底に焼け石を、その上に食材を入れた籠を置き、湿らせた布を被せ、穴を土で埋め戻し、焼け石の余熱で蒸し焼きとする。大地が腕を揮う、素朴な料理だ。一方、クラウンとしての出演も!「クラウンの活動を、将来的には教育現場に取り入れてもらうのが夢なんです。障がいの有無に関わらず、クラウンの持つ包容力や、言葉を発しないことで逆に伝えられる、そんなコミュニケーション力を、子どもたちに伝えることが出来れば、自然な形で互いの多様性も認め合えるはずなんです」。ゲレンデに舞う雪を、優しくに見詰めた。

「将来はフラも事業の一つに!」。横浜のフラの師が言った。『君はエカヒレイホノホノ(伝える人、伝える先生)になりなさい』って!」。岡崎さんの中に潜む、スピリチュアルな感性を、クラウンの師もフラの師も、自ずと見抜いた。声音や言語ではない波長が、クラウンTokaの表情や滑稽な動作を通じ、言語を越えた心の言葉となり、相手の心とチャネリングされ、言葉に頼らぬコミュニケーションが成立する。クラウンもフラも、キャンプ場の大自然も、何一つ言葉を発することなく人々を癒す! 大らかで緩やか、そして寛容な『ケレケレ』の思想を、飛騨のClown Tokaは、今日も誰かに伝える。『ケレケレ』の伝道師として!



おかざき けんいちろう
河合町 岡崎 賢一郎さん



市ホームページでは、フルバージョンやこれまでの連載もご覧いただけます。

文/オカダミノル
(飛騨市観光プロモーション大使)
イラスト/波岡孝治
(のみながらにがえ師)